

2013 年度前期授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—社会イノベーション学部—

社会イノベーション学部長 古川 良治

評価項目 14 のうち、半分の設問において 5 点尺度で 4 点以上を得ており、概ね良い評価を得ていると考えられる。中でも「教員は授業時間を有効に利用した」「休講または教員の遅刻が多かった（得点を逆転させ、得点が高い方が休講や遅刻が少ない評価となる）」では比較的高い評価を得ていた。また「この授業によく出席した」についても高得点であったが、今回は必修科目が一定の割合で含まれていたことも影響していると考えられる。

一方、4 点に達しなかった設問もあり、「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」「予習または復習をよくした」については相対的に低い評価となっていた。この 2 つの設問については、大学全体での授業評価結果も同様の傾向であったが、その評点と比較しても低い値であった。今回の対象科目のうち講義科目の割合が比較的高く、これらの科目では学生に議論をさせることが主でないことも影響していると考えられるが、今後どのような対応が可能か検討する必要があるろう。

また、「総合的にこの授業を評価できる」との相関が最も高かったのは「この分野の関心と学力が得られた」であり、次いで「授業への教員の熱意を感じた」「教員の話し方は明瞭であった」「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」「教員は授業時間を有効に利用した」「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた」が比較的相関が高いという結果であり、どのような授業運営が望ましいのか検討するうえで参考になるものと思われる。

いずれにせよ、今回は前期の科目が対象となっているものであり、通年科目、後期科目を含めた場合とは各授業形態の割合も異なっていることから、後期の授業評価アンケート結果が揃った段階で改めて調査結果を検討する必要があるものと思われる。